

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立納所小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上アクションプランのPW→GW→CWの授業形式に書く活動（自分の考えを書く、ふり返りを書く）を取り入れた研修を進めることができた。「理由をはっきりさせたり、例をあげたりして、自分の考えを書く」ことができた児童が80%以上となり、授業改善が進んでいる。次年度も授業のねらいを明確にし、児童自身が問題を解決していく授業を組み立てることで、学力の確かな定着に取り組んでいく。</p> <p>・毎月実施している「なかよしアンケート」をもとに、児童の学校でのがんばりや悩みを把握し、賞賛や指導を行うことはできた。いじめの対応については、研修会を定期的に行うとともに、日頃から児童の様子について話し合える教職員集団であることを心がけてきた。SCやSSWを交えた研修会を次年度も実施し、児童にもっと寄り添うことができる教職員集団を目指す。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	「納所がすき！」「学校がすき！」と言える子どもの育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<p>○「心を育む活動」の充実・・・か（感じて考えて動く心づくり）</p> <p>○「主体的に学ぶ力の育成」・・・ぜ（全力で学ぶ意欲づくり）</p> <p>○「連携教育」の強化・・・つ（つながって学ぶ環境づくり）</p> <p>○「自己有用感・肯定感」の向上・・・こ（根気強くやりぬく姿勢づくり）</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○学習意欲と達成感を育む授業づくり	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員を80%以上にする。 ○「自分の考えや思いを書く活動ができるようになった」の質問に対して、肯定的な回答をする児童を80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・音読活動を授業の始まりに行う。 ・本時の学習課題に対してキーワード等を示してまとめさせたり、振り返りも視点を与えて取り組ませたりする。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができる児童を80%以上にする。 ○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員90%以上にする。	・「あいさつ運動」を実施したり、「言葉づかい」について考える授業を行ったりして、意識付けと実践化を図る。 ・毎月なかよしアンケートを実施する。生活指導協議会では、気になる児童への支援の在り方について話し合う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	A A	・自分から進んでの「あいさつ」や丁寧な「言葉づかい」ができるようになった質問に対して、肯定的な回答をする児童は80%。 ・継続して、各クラスで生活目標を毎日評価していた。「あいさつ」「言葉づかい」については、機会あるごとに声をかけたり、道徳などの授業で取り扱ったりした。 ・いじめについて組織的対応ができていると回答した教員は90%。 ・引き続き、定期的「なかよしアンケート」を実施して、気になる事案、気になっておきたい児童を把握した。その後、生徒指導協議会において、職員間で、共通理解を図ったり、対応の仕方を話し合ったりして、実行していった。	A B	・あいさつや丁寧な言葉づかいは、感心するほどできている。例えば、横断歩道で車を停めて子供を渡らせると必ずお辞儀をするなどとても気持ちがいい。「挨拶運動」のおかげだと思う。 ・いじめをなくしていくとする先生方の努力に感謝している。常に子供たちの立場に立ちながら、声を聞き逃さず、これからも指導をしてほしい。	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○体力づくりにつながる運動遊びの奨励	●「健康に食事は大切である」と考える児童を80%以上にする。 ○地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ学習を通して、「地域が好きだ」と答える児童を80%以上にする。	・食に関する意識調査を年2回実施し、その結果をもとに、学級活動や保健の時間に「食の大切さ」を考える授業を実施する。 ・県スポーツチャレンジの種目や運動遊びを紹介し、多様な運動に親しませる。	A B	・学級活動において、「食の大切さ」について取り組むとともに、給食の時間にも声をかけるようにした。 ・給食の量を調節することで、ほぼ時間内に全員完了できた。 ・健康委員会から給食週間、食のマナー、感謝する心などについて発表を実施。また、栄養教諭から全校へ講話をして頂いた。その後の感想からも「給食を残さず食べたい」「私たちのことを考えて作ってもらっていることがわかった」といった意見が多数あり、食の大切さについて考える機会となった。 ・12月に、持久走大会を実施した。休み時間も積極的に練習に参加する児童が多かった。しかし、新型コロナウイルスへの対応もあり、どの運動をする場合でも、期間や人数の制限が多く、もっと運動したいという思いが残る児童も数多くいた。	A B	・まずは健康な体で学校に通うことが重要で、それには正しい食生活が欠かせない。家庭での努力はもちろんのこと、学校でも引き続き指導をお願いしたい。 ・新型コロナウイルスの影響で、日頃の運動もできていないようだ。今できる運動をこれからも紹介してほしい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ○月平均45時間を守る教職員を100%にする。	・定時退勤日を設定する。 ・学年毎で使用データの共有化を図る。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均3.1時間。 ・勤務内容の見直しを行い、「今日すべきこと・明日すべきこと」を意識しながら、勤務することができている。 ・データの共有化については、適宜声かけを行った。	A	・時間外勤務の平均時間が昨年度より減少していると聞いて、安心した。今のコロナ禍で、先生方が体調を崩してしまっただけで、子どもたちが心配するので、健康第一でがんばってほしい。	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○一人一台端末の活用	○タブレット端末の活用	○タブレット端末を使って指導法改善に取り組んだ教員を100%にする。	・教育情報化推進リーダーとICT支援員を中心に校内研修を実施する。 ・タブレットを使用した授業を計画・実施して、効果的な活用を図る。	
○特別支援教育の充実	○個に応じた教育の充実	○児童への配慮や心構えが向上したと答える教員を80%以上にする。	・校内支援委員会で、支援のあり方について見直しを図り、そのことを職員に提示し、実践を行う。 ・校内研修で、スクールカウンセラー等を講師にして支援のあり方を学ぶ研修会を行う。	A	・学期ごとにこのびこ研を実施。児童の支援について全職員で活発に意見交換できる場となった。	B	・子供たち一人一人に丁寧に対応していただいている。スクールカウンセラーとの研修は、これからは継続して行って、子供への対応について研修を進めてほしい。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・学力向上アクションプランのPW→GW→CWの授業形式に書く活動（自分の考えを書く、ふり返りを書く）を取り入れた授業を進めることができた。その結果、「自分の考えや思いを書く活動ができるようになった」と答えた児童が90%以上となり、授業改善が進んでいると考える。タブレットPCを用いての学習も研究発表を通して、授業のどの場面で使用すれば効果があるかを検証することができた。次年度は、児童自身が問題を解決していく授業を実践するとともに、算数科において基礎的な学力の確かな定着に取り組んでいく。</p> <p>・毎月実施している「なかよしアンケート」をもとに、児童の学校でのがんばりや悩みを把握するとともに、児童の支援について全職員で協議することができた。いじめの対応(未然防止等)については、次年度も「いじめについて考える」授業を道徳科を中心に据えて行ったり、SCやSSWを交えた研修会を計画的に実施したりして、児童にもっと寄り添うことができる教職員集団を目指す。</p>
--------------------	---